

問題 1. 次の対称行列 A_k の固有値を求めよ. 相異なる固有値に属する固有ベクトルは互いに直交することを確認せよ. それぞれの固有空間の基底を 1 組求め, これを Gram-Schmidt の方法で正規直交化した基底を並べてできる行列を P とおくと, $P^{-1} = {}^tP$ であることを確かめよ (このような P を直交行列とよぶ). また tPAP が対角行列となることを確かめよ.

$$(1) A_1 := \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 3 & 1 \end{pmatrix} \quad (2) A_2 := \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 2 & -2 \end{pmatrix} \quad (3) A_3 := \begin{pmatrix} 2 & 0 & -1 \\ 0 & 2 & 0 \\ -1 & 0 & 2 \end{pmatrix} \quad (4) A_4 := \begin{pmatrix} 0 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & -1 \\ -1 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

問題 2.

(1) V, W を \mathbf{K} ベクトル空間とする. $\mathbf{K} = \mathbf{R}$ または \mathbf{C} である.

(i) 写像 $f: V \rightarrow W$ が線形であることの定義を述べよ.

(ii) 線形写像 $f: V \rightarrow W$ について, $\text{Ker } f, \text{Im } f$ の定義を述べよ. これらはそれぞれ V, W の部分ベクトル空間であることを示せ.

(2) 次の線形写像 f_k について, $\text{Ker } f_k, \text{Im } f_k$ の基底をそれぞれ一組ずつ求めよ.

$$(i) f_1: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^1, \quad f_1 \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} := 3x - y \quad (ii) f_2: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^2, \quad f_2 \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} := \begin{pmatrix} 2x + y \\ 4x + 2y \end{pmatrix}$$

$$(iii) f_3: \mathbf{R}^2 \rightarrow \mathbf{R}^3, \quad f_3 \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} := \begin{pmatrix} x + 2y \\ 2x - y \\ 3x + 2y \end{pmatrix} \quad (iv) f_4: \mathbf{R}^3 \rightarrow \mathbf{R}^2, \quad f_4 \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} := \begin{pmatrix} x + 2y + 3z \\ 2x + 4y + 6z \end{pmatrix}$$

(3) A を $n \times n$ 行列とする. $\lambda \in \mathbf{C}$ が A の固有値であることの定義を述べよ. λ が A の固有値であるとき, λ に属する固有ベクトル, ならびに固有空間 $V(\lambda)$ の定義を述べよ. $V(\lambda)$ は \mathbf{C}^n の部分ベクトル空間であることを示せ.

問題 3. (教科書 p. 148, §5.3 参照). $(V, (\cdot, \cdot))$ を実内積空間とし, $\{v_i\}_{i=1}^n$ を V の正規直交基底とする.

(1) 各 $x \in V$ に対し, $x = \sum_{i=1}^n (x, v_i) v_i$ が成り立つことを示せ. (ヒント: $x = \sum_{i=1}^n a_i v_i$ とおき, 両辺と v_j の内積を取ると a_j が求まる)

各 $x, y \in V$ に対し $(f(x), f(y)) = (x, y)$ をみたす線形写像 $f: V \rightarrow V$ を考える (このとき, f を直交変換という)

(2) 各 $x \in V$ に対し $|f(x)| = |x|$ であることを示せ.

(3) $\{v_i\}_{i=1}^n$ に関する f の表現行列は直交行列 (問題 1 参照) であることを示せ.

補足. 問題 2 は今までの復習です. 問題 1 も, 以前やった対角化可能性の判定・実際に対角化する方法の復習になると思います. 十分に準備して期末試験に臨んでください.

問題 1 でわかるように, 対称行列は直交行列で対角化されますが, 講義では時間の都合で証明を割愛しました. 対称行列の一般化である正規行列の対角化や, 対角化できない行列についての上三角化やジョルダン標準形といった変形方法など, やるべきことはたくさんあります. また, 教科書の二次形式の部分も時間の関係で割愛しました. 幾何学と線形代数が結びついた面白い内容です. こういった内容については, 興味があればぜひ自習してみてください. 一部は教科書に書いてありますし, より進んだ参考書には上記のことがすべて書かれています.

大学の数学は高校数学とはずいぶん雰囲気が変わり, 非常に抽象的でわかりづらく感じる人が多いのではないかと思います. また生物・地学などを学ぶ上で数学を使う機会はそれほど多くないかもしれず, モチベーションを上げるのはなかなか難しかったかもしれません. 数学科以外では, とにかく計算ができればいい, という雰囲気の講義になりがちですが, 今回は敢えてある程度本格的に抽象的な数学をやってみました. 目先のこと (単位など) にとらわれずにしっかり数学を学んだ人は, 腰を据えて物事をきちんと筋道立てて考える素養が少し備わったのではないかと思います. 数学の内容を忘れてしまったとしても, そのような力は必ず今後に生かされるはずで, 自信をもって自分の専門分野に進んでください.